

図書館を想う

丸尾 純子

久しぶりの帰省で図書館に立ち寄り、20年ほど前「書窓」に寄稿させていただきましたね、とカウンターで話すと、現在その企画は無いのですよと知らされた。いつも楽しく拝読していた身としてはショックで、もう一度書かせてほしいと願い出た。私の大好きなこの図書館を利用している人たちが、本とどのようなお付き合いをしているのかを知る楽しみは、オムニバス形式の短編集を読むようでわくわくしたものである。というわけで、以前の企画を復活すべく、私の図書館への想いを綴らせていただこうと思う。

中学2年生になる娘は私以上に本好きな子に育ち、今ではこちらに来ると図書館へ行きただる。元館長の小寺さんにまで名前を覚えていただくほどである。小寺さんは会うといつも私達に合う本を選んでくださるのだが、一体何人分の引き出しを持っておられるのだろうかと思

で仕方ない。頻繁に図書館に通っていたころ、図書館のお姉さんと思っていた司書さんが次々に館長に就任、退職され、時の経つ早さに驚くばかりである。今でも司書さんから「純子ちゃん」と呼ばれ堂々と返事をしているが、そういういえば私もそれなりの年齢になっているのだ。

これまで日本各地、また海を越えて異国までも転々としながら、住む先々で図書館を訪れたのだが、どこへ行ってもやはりこの太子町立図書館に敵うものがないと思うのは、決して最良目で見ているからではない。利用者の年月ごとあたたかく迎えてくださる司書さんたちが、図書館の魅力そのものなのだ。そして窓から程よく差し込む光や静かに佇む椅子、優しい色の本棚など昔から変わらないその光景も、私たちと一緒に時を経てきた図書館の魅力なのだと思ふ。

訪れる人の心を和ませるこの素敵な図書館との関わりを、また次の誰かが語ってくれることを期待して止まない。

(つくば市)

お知らせ

親子で！ダンボール工作教室

ダンボールでスペースシャトルを作ろう！

- ・日時：① 7月28日(日) ② 8月10日(土)
①②ともに 14:00～16:00
- ・場所：太子町立図書館 読書会室
- ・対象：小学生の子どもとその保護者
- ・定員：各回 6組まで
- ・持ち物：軍手、はさみ、ストッパー付きカッター
- ・申込：図書館カウンターまで（窓口受付のみ）

なつや de 文化村 8月10日(土)

【絵本の時間】 11:00～11:30

・対象：2～3歳の子どものとその保護者

【親子で！ダンボール工作教室】

左記「親子で！ダンボール工作教室」参照

※②の日時です。

※詳しくは太子町立図書館まで。または、図書館のホームページをご覧ください。

7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

▶ ×印は休館日

・祝日の振替休館日

7/17、8/14

・館内整理日

7/31、8/30

※閉館時は返却ポストをご利用ください。

▶ 開館時間：

10:00～18:00

※金曜日のみ

10:00～20:00

7・8月の移動図書館（いずれも木曜日です）

7月	8月					
11日	8日			福地(三反長) 地域内 14:30～14:50	米田 公会堂 15:00～15:20	竹広南 公民館 15:30～15:50
18日	15日			原池団地 公民館 15:00～15:20	山田 掲示板前 15:30～15:50	原 太田東地区 農村交流センター 16:00～16:20
25日	22日	広坂 公民館 10:30～10:50	上太田 公民館 11:00～11:20	塚森 地域内 15:00～15:20	太子ニュータウン 公民館 15:30～15:50	吉福 公民館 16:00～16:20

< お知らせ >

13歳からの読書会

『ぼくとくらしたフクロウたち』を読んで

(ファーレイ・モワット/作 稲垣明子/訳 評論社)

・日時：**8月18日(日)**

14:00～15:30

・場所：図書館 読書会室

・対象：中学生から大人まで

・準備：当日までに本を読んできてください。

・申込：太子町立図書館

※詳しくは太子町立図書館まで。又は図書館のホームページをご覧ください。

地下水

図書館は皆さんにとってどんな場所だろうか。その答えは人によって様々だと思うが、きっと「本」というワードは外せないはずだ。

私は今年の4月に異動で図書館勤務となり、今まで所属していた部署とはまた違った仕事のやり方を少しずつ覚えていく最中で、まだまだ知識も経験も浅い職員である。大人になってからは忙しさを言い訳に、本を手にとって読むこともほとんどなかったが、ここで仕事を始めるうちに、本を読むことが楽しくなった。

きっかけはとても単純だ。一緒に働く司書の思いに触れたからである。

「本の魅力を伝えたい」一心で、利用者の好みに合わせて本をおすすめすることや、子どもが本に触れるきっかけになればと、興味を惹くような手作りの工作を展示すること等、どの作業にも紛れもなく思いやりというひと手間がある。それを当たり前に思う人もいるかも知れないが、利用者のために全力で仕事に挑む姿勢はやはり心を動かされ、読んでもらいたいと時間をかけて蔵書された本の内容は知りたくなるのだ。

今日も私が働く図書館には、本との出会いを求めて利用者がやってくる。まだ半人前ではあるが、「読んでみたい」と思わせる、誰かの心を動かすサービスができるように、仕事に全力で取り組んでいきたい。

(竹田)